

夏まるかじりツアー

8月1日(火) ~ 8月3日(木)

IN 国立曽爾青少年自然の家

	午前	午後	夜
1日目	施設向け出発	ハイキング	レクリエーション ナイトハイク
2日目	野外炊飯	グループタイム	キャンプファイヤー
3日目	清掃・工作	施設を出发・解散	

一日目： 尼崎駅に全員が集まり、2台のバスに分かれ、施設近くの道の駅まで向かいました。車内は最初こそ静かでしたが、緊張が解れ、次第に賑やかな声が響いていました。昼食と川遊びの準備を済ませた頃に雨が降り出し、一気に大雨となりました。雨は一時間程で止みましたが、予定していた川の水かさが大幅に増した為、泣く泣く川遊びを断念し、ハイキングを行いました。列になってしりとりをしたり、カニやチョウチョなどの生き物を見つけたり、グループで楽しむ姿が見られました。山の中では普段は出せないような大声を出し、開放的な気分も味わえたようでした。施設に到着し、荷物整理を済ませ、夕食を済ませました。夜はレクリエーションとナイトハイクを楽しみました。じゃんけん列車やダンスで盛り上がっているうちに外は暗くなりました。懐中電灯を持ち外に出ると、予想以上に星が沢山見えました。星の他にも雲海や飛行機雲が見え、広場に寝転がりながらのんびり眺めました。明日は晴れるといいね！



二日目： とても目覚めが良いようでした。活動準備を整えた後、元気よく外へ飛び出し、朝食のパックドック作りが始まりました。経験者が多い事もあり、とても手慣れた手つきで準備し、出来上がったホットドックを美味しく頬張っておられました。そして次は、昼食のカレーライスを作りました。ここからは、かまど、お米、カレーの3つの係に分かれ、作り進めていきました。作業が進み、お鍋をかまどの上に置く頃にはみんながかまどの周りに集まり、今か今かと心待ちにしておられました。火の熱さや煙に苦戦しながらもなんとかカレーが完成し、一安心といった表情でした。食べ終わった後は、手を真っ黒にしながら洗いを頑張り、全ての片付けを終える頃には少し疲れが見られました。朝からずっと外にいたので、休憩も兼ねて部屋でグループタイムを設けました。荷物整理をしたり、お喋りをしたり、ごっこ遊びをしたり、リフレッシュの時間となったようでした。夕食頃から風が強まり、雨雲が広がり始めた為、屋内でのキャンドルファイヤーに変更し、その分長い時間ファイヤーを楽しみました。一日目に練習したダンスや、幾つものゲームを満面の笑みで楽しみ、あっという間に時間が過ぎていきました。



三日目： 最終日は朝のつどいまでにやる事が多く、眠い目をこすりながら布団の片付けや清掃を進めました。朝食後は荷物を運び出し、共有スペースの清掃を行いました。忙しい朝でしたが、一人一人が素早く行動し、時間通りに終わることができました。その後、工作室へ移動し、思い出工作をしました。焼き板をブラシで磨き、キャンプの思い出を絵で描きました。楽しかった事、嬉しかった事、しんどかった事、様々な事を思い出しながら、板の隅々まで絵を描いておられました。焼き板が完成し、昼食の時間までグループでのんびり過ごしました。最後はリクエストの多かった歌を歌い、更に追加でダンスを踊り、みんなで盛り上がりました。帰りのバスでは、映画を見たり、ゆっくり休んだり、それぞれの過ごし方で尼崎へと戻ってきました。また、みんなで会おうね！



<キャンプ総括>

今年の夏まるかじりツアーはキャンプ経験者が多く、グループへ気持ちが向いている様子が随所で見られました。早くから意気投合し、初日から「グループタイムが欲しい！」という声上がる程でした。グループでいる事が楽しくなると、準備や移動といったプログラムの間の時間も楽しめるようになり、気持ちが途切れる事なく次のプログラムへと移れるようになりました。また、今年は天候が急変することが多く、例年以上にプログラムの変更が相次ぎました。しかしそのような状況の中でも、常に盛り上がる事ができたのは、“何を楽しむか”と同じくらい“誰と楽しむか”ということへの意識がキャンプ全体に広がっていたからだだと思います。友達との繋がりや自然現象など、様々な変化を楽しめる仲間づくりをこれからも大切にしていきたいです。(生本 ひろみ)